

## 公認審判員制度の改正に向けて

日本陸上競技連盟 競技運営委員会  
審判員研修 PT

## 1. 改正を検討する背景

日本陸連では、1948 年から公認審判員制度を設けてきた。従来の「3 種－2 種－1 種－終身 1 種」からなる審判員制度は、2014 年に現行の「B 級－A 級－S 級」へと改訂され、現在に至っている（2021 年には C 級審判員を追加）。その間、世界陸連（World Athletics：WA）においても審判員制度が整備され、「NTO（National Technical Officials）」および「ITO（International Technical Officials）」という形態を経て、現在は「NAR（National Athletics Referee）－ブロンズレフェリー（World Athletics Referee－Bronze level）－シルバーレフェリー（World Athletics Referee－Silver level）－ゴールドレフェリー（World Athletics Referee－Gold level）」に体系化されている。

このように、現在は日本陸連と WA の審判員制度が並立・一部重複している状況にある。近年では、WRk 競技会において WA レフェリーの配置が求められるなど、国際基準への対応の重要性が高まっており、より分かりやすく整理された審判員制度へと集約する必要性が生じている。

JAAF	WA
<ul style="list-style-type: none"> <li>・C 級 16 歳以上(高体連の登録会員) 加盟団体審査</li> <li>・B 級 18 歳以上 加盟団体(日本学連)審査</li> <li>・A 級 B 級取得後満 10 年以上 加盟団体審査</li> <li>・S 級 A 級取得後満 10 年以上 満 55 歳以上 日本陸連審査</li> </ul> 複線として JTO/JRWJ 制度（日本陸連審査）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NAR 16 歳以上 e-Learning 実技 3 試合</li> <li>・WA Referee Bronze (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) NAR3 年 19 歳以上 e-Learning Online 試験</li> <li>・WA Referee Silver (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) WARB 4 年 23 歳以上 e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation 2 年毎</li> <li>・WA Referee Gold (Referee, Starter, Race Walking Judge, Photo Finish Judge) WARS 4 年 27 歳以上 e-Learning, Webinars, Online Exam; Written Presentation 2 年毎</li> </ul>

## 2. アンケート結果から（加盟団体の声）

昨年度、各加盟団体向けに公認審判員制度の改正についてアンケートを実施した。日本陸連と WA の審判員制度の統合に賛成と回答された加盟団体からは、「国内ルールの適応か国際ルールの適応かを混乱しないためにも WA の審判員制度に準じていくことは必要」「時代の変化とともに国内競技会も WA スタandard に変遷してくことも視野に入れ、国内競技会において NAR 及びブロンズレフリーの積極的な活用を試みていく必要はある」「日本陸連の審判員制度は昇級試験がなく、10 年務めたご褒美みたい。B 級であっても審判員主任を務めている現状である。」という声が挙がっている。

一方、反対と回答された加盟団体からは、「ブロンズレフェリー試験を受験するハードルの高さ」と審判経験の豊富さの両立させるのは、非常に困難」「WA 資格が紐付くことによって、日本陸連の審判員

資格取得が難しくなることにならないことを望む」「eラーニングを受講しないと昇格の対象にならないのであれば、ほとんどの人が昇格意欲をなくしてしまう」「地方には栄章の意味合いも持っている現実がある」「永年の審判業務の励みとして、S級は日本陸連の制度として残してほしい」「現在の審判員制度を残したまま、WAレフェリーを取得する方法がいい」という声が挙がっている。

また、これとは別に「S級は一般審判員としては最高峰の資格になるため、経験年数等だけではなく高度な知識を持った方が所持すべきではないかを感じる。さらに、年齢に関係なく高度な知識を習得していればS級になる機会があっても良いのではないかと思う。」という声も寄せられた。

### 3. JTO/JRWJ 制度について

JTO/JRWJ については、単にジャッジに関わる審判技術にとどまらず、競技会運営やトラブル対応に関する事項まで幅広く網羅している。また、その試験内容は WA Referee Gold に匹敵する水準であると評価されている。

このため、引き続き JTO は総務の直下に位置づけ、審判長に対する必要な支援を行うとともに、競技が競技規則、競技注意事項等、ならびに総務の最終的な決定に基づいて適正に実施されていることを確認する。同様に、JRWJ についても従来どおり配置する。

### 4. 今後のスケジュール

2026年3月以降	陸連理事会に原案の提示 意見聴取・検討
夏	具体的な作業（ルールブック・ハンドブック・諸規定の修改正）
2027年4月	新制度開始（予定）

### 5. その他

- ・C級審判員について、活用されている加盟団体がある一方、「C級からB級への移行に壁がある」「C級取得年齢の引き下げ」等の声が挙がっている。それとは別に、「B級審判員でも審判長・主任ができる現状について、基準を示してほしい」というご意見もいただいている。これらについては、これから行われる具体的な作業の中で整理していく。
- ・「登録料が挙がっていくので、S級・A級へ昇格を希望する人が少ない。登録費を同額にしてほしい」というご意見をいただきましたが、日本陸連の登録料に級別の差はありません。加盟団体独自に設定されているものと思われますので、加盟団体においてご検討下さい。（「審判手当」については主催(主管)団体においてご検討下さい）
- ・「JAAF START に審判等級を入力できるようにしてほしい」という要望をいただきました。2026年度については、各団体から、審判等級のわかる審判員名簿を日本陸連へ提出いただき、日本陸連事務局にて、JAAF START との紐づけを行うとのことです。詳細は別途インフォメーションセッション等で事務局よりご説明をさせていただきます。
- ・2027年からの制度改正（予定）に合わせて、審判手帳を更新する可能性がある。審判手帳の発注数や在庫管理についてはご留意いただきたい。